



本学名誉教授の名を冠した海底地形名を国際会議が承認

本件のポイント

- ・世界の海底地形名を定める国際会議において、日本提案の海底地形名 23 件が承認された。
- ・このうち、1 件は海洋化学等の進展に貢献された、角皆静男北海道大学名誉教授（故人）の名前を冠した名称が登録された。

本件の概要

国際水路機関（IHO）とユネスコ政府間海洋学委員会（IOC）の傘下であり、世界の海底地形名を公式に定める「海底地形名小委員会」が、9月19日（月）から23日（金）までアメリカ・ボルダーで開催され、各国から提案された海底地形のうち81件に名称が付与されました。

日本が提案し承認されたものは、23件ですが、9件については、海洋化学、微化石学等の研究者、海洋調査船の船長、測定装置の普及に尽力し、海洋調査に貢献する等の功績のあった人物に因んだ名称が付与されました。

このうちの1件は、海洋における物質循環や、二酸化炭素（CO₂）による地球温暖化とそれに伴う海洋における生物地球科学的变化に関する研究に従事し、海洋化学、地球環境科学の進展に貢献された、故 角皆静男北海道大学名誉教授（元地球環境科学研究科教授）に因み、「角皆海山（Tsunogai Seamount）」と名付けられました。

故 角皆名誉教授は、海洋化学、地球環境科学の分野において、化学的手法を用いた大気・海洋を通しての物質循環に関する研究に長年にわたり従事し、研究論文は約210編、その他の論文や著書等は約310編に及び、これらの業績が評価され、1984年に日本海洋学会賞、1990年には日本地球化学会賞が授与されています。

同氏が従事された研究内容は、天然放射性同位元素を用いた海水・物質輸送に関する研究、セジメントトラップを用いた鉛直輸送過程に関する研究、大気を通して海洋へ輸送される物質に関する研究、海底での続成過程に関する研究、海洋を軸とした大気・海洋・海底を通しての物質循環についての総合的な研究など多岐にわたりますが、1990年以降は、温暖化や海洋酸性化の要因として問題となっている海洋のCO₂に関わる研究に精力的に取り組み、全海洋の8%の面積しか占めない200m以浅の大陸棚が全海洋の大気中CO₂吸収量の半分に近い量を吸収していることを解明するなど、世界的な地球環境科学研究の進展に貢献されました。

「角皆海山」を含む、日本が提案し承認された海底地形名は、IHO/IOC 海底地形名集に掲載され、世界中に周知されます。

お問い合わせ先

所属・職・氏名：北海道大学大学院地球環境科学研究院 准教授 渡邊 豊（わたなべ ゆたか）
TEL：011-706-2371 FAX：011-706-4867 E-mail：yywata@ees.hokudai.ac.jp

Tsunogai Seamount (角皆海山)

位置：北太平洋、南鳥島東方約 490km

規模：東西約 50km、南北約 50km

最大水深 5,800m、最小水深 1,280m 比高 4,520m

